

スポーツによる新たなパブリックスペースを  
共につくる

プライム建築都市研究所

田辺芳生

# I これからの公共空間の新しいつくり方を考える

行政が施設を整備し、  
維持管理を民間に委託する



行政と民間がパートナーシップを形成し  
新たな「パブリックスペース」をつくる

## Ⅱ スポーツによる新しいパブリックスペースを考える

- 1 スポーツに関わる人の幅を広げていく
- 2 スポーツで何ができるか
- 3 持続可能性

# 1 スポーツに関わる人の幅を広げていくことを考える

スポーツを

「する・みる・支える ヒト」 + 「以外のヒト」

(例えば公園利用者)



誰もが自由に参加できる、公共性の高い施設をつくる

## 2 スポーツで何ができるかを考える

健康増進  
地域活性化  
交流人口拡大  
経済活性化  
スポーツツーリズム・・・



スポーツの特性に特化した施設というだけではなく、  
地域住民のニーズ、地域の問題や課題に対して  
柔軟に対応をする施設とする

### 3 持続可能性を考える

- 自治体予算に大きく頼るのではなく、独立採算性へ
- 施設利用料以外の収益事業を検討し、新たなビジネスモデルを確立する
- IT・IOTの活用

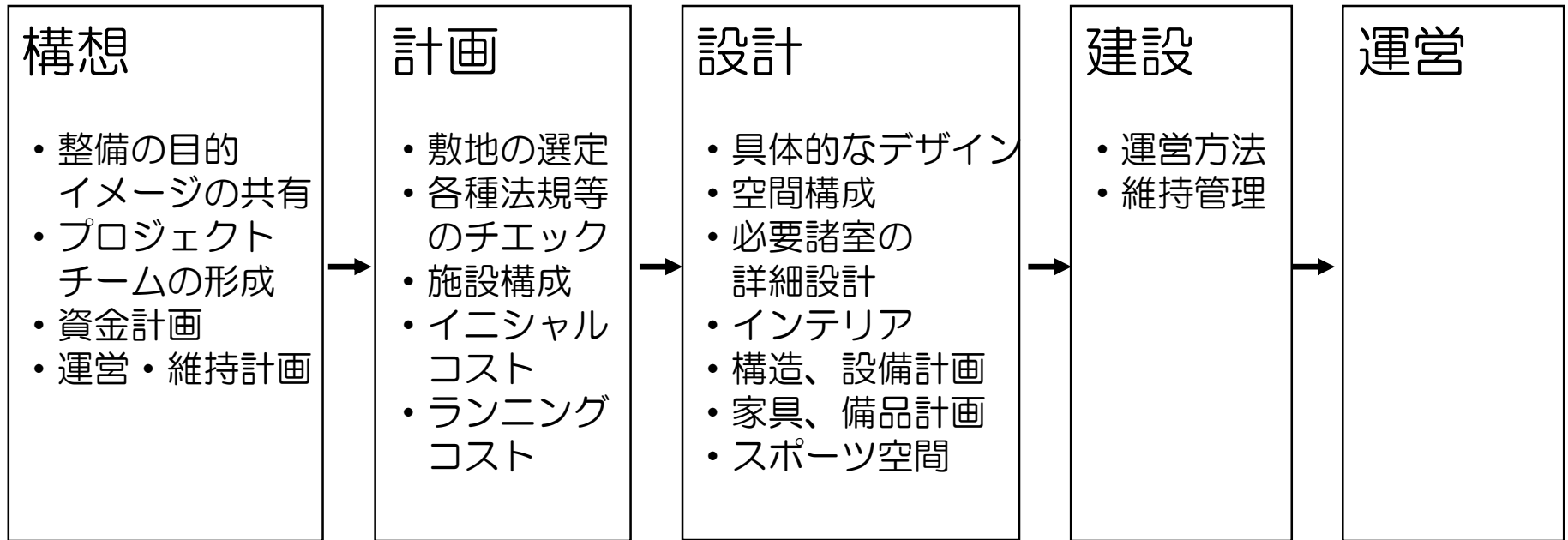


公益性と収益性のバランスを考えた  
持続可能な施設とする

### Ⅲ 施設デザインのコンセプトを考える

- 1 LIAISON 多様な場をつなぐ
- 2 MULTIFUNCTION 多目的な利用ができる
- 3 UNIVERSAL 誰もがつかえる
- 4 CO-CREATION 共につくる

## IV 施設整備のプロセスを考える



構想段階から行政と民間のパートナーシップを組織する



## V 事例紹介

- 1 陸前高田クラブハウスプロジェクト  
(クラブハウス80m<sup>2</sup>+天然芝グラウンド1面)
- 2 ちふれ化粧品飯能研修センター  
(クラブハウス480m<sup>2</sup>+人工芝グラウンド1面・照明設備)
- 3 テラスポ鶴舞  
(クラブハウス720m<sup>2</sup>+人工芝グラウンド2面・照明設備)
- 4 スポーツを通じたインクルーシブな社会実現のための施設整備計画  
(県立布勢運動公園内に障がい者スポーツ拠点整備)
- 5 都市型スポーツシューレプロジェクト  
(既存運動公園をリノベーション)

# 1 陸前高田クラブハウスプロジェクト

加藤久氏（元JFA復興支援特任コーチ）が本プロジェクトを立ち上げる

2012 小学校の仮設グラウンドを芝生化  
（JFAポット苗事業）

2013 仮設グラウンドの外周に、現地の杉の丸太を使い防球ネットを設置（Jリーグ TEAM AS ONE募金）

2013 クラブハウスプロジェクトチーム結成

2014 クラブハウス完成

2015 陸前高田市に寄付

# 1 陸前高田クラブハウスプロジェクトコンセプト

- 1 震災にあわれた市民の皆さんが、エネルギーを取り戻せるような交流の場をつくる。
- 2 震災のため学校のグラウンドが仮設住宅により使用できない子供たちや、外に出ることが少なくなっているお年寄りの、健康づくりの場とする。
- 3 施設の設計や施工を地元の会社が担い、地域の方たちが参加し手作りで作くりあげる。

# 1 陸前高田クラブハウスプロジェクト事業計画

## 資金計画

- 1 陸前高田クラブハウスプロジェクト支援基金
- 2 チャリティイベントによる寄付（Sawa & Friends等）
- 3 物品提供

## 運営

一般社団法人上長部の郷に陸前高田市が管理業務を委託  
陸前高田市サッカー協会が協力



クラブハウス完成





クラブハウスには寄付によるキッチンやストーブを設置

## 2 ちふれ化粧品飯能研修センター

新工場計画における福利厚生施設の整備として始まる

2012 ASエルフェン埼玉（なでしこリーグ）も参加し  
施設計画の検討開始

2013 人工芝グラウンド完成 ASエルフェン埼玉運用開始

2014 研修センター完成 ちふれ化粧品+ASエルフェン埼玉  
運用開始

2015 オープニングセレモニー

## 2 ちふれ化粧品飯能研修センターコンセプト

- 1 研修施設、工場の福利厚生施設、ASエルフェン埼玉のクラブハウスとしての複合的機能を持つ。
- 2 スポーツをキーワードに、ASエルフェン埼玉等女性スポーツを化粧品会社として支援する場。
- 3 地域の方たちとの共創の場として高い創造力を発揮しながら活動ができ、強い発信機能を持つ場。



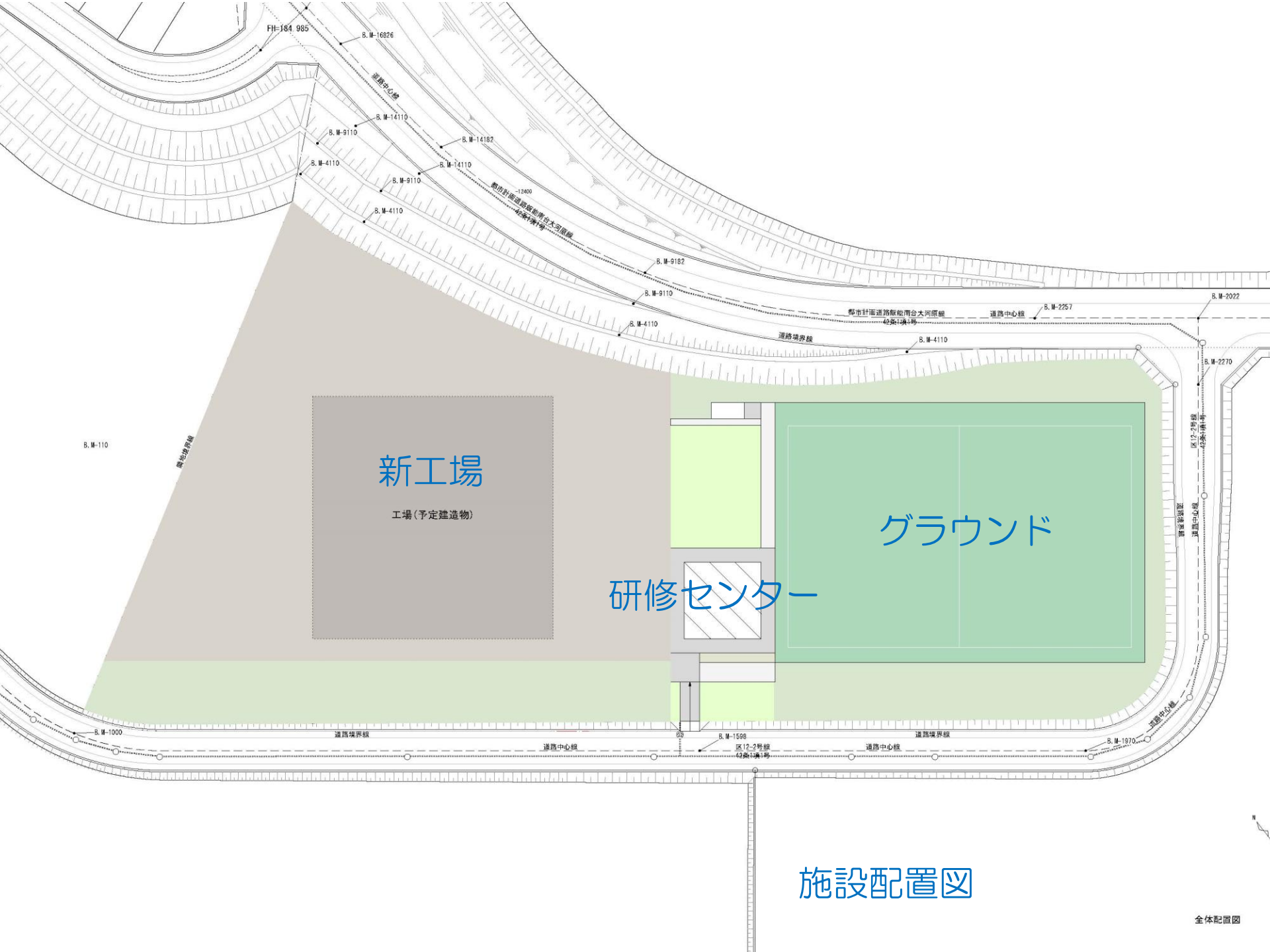
## 2 ちふれ化粧品飯能研修センター事業計画

### 資金計画

ちふれ化粧品飯能工場建設資金

### 運営

- 1 研修機能：ちふれ化粧品
- 2 クラブハウス機能・グラウンド  
：ASエルフェン埼玉へちふれ化粧品が業務委託



施設配置図

# クラブハウス機能

ロッカールーム

フィットネスルーム

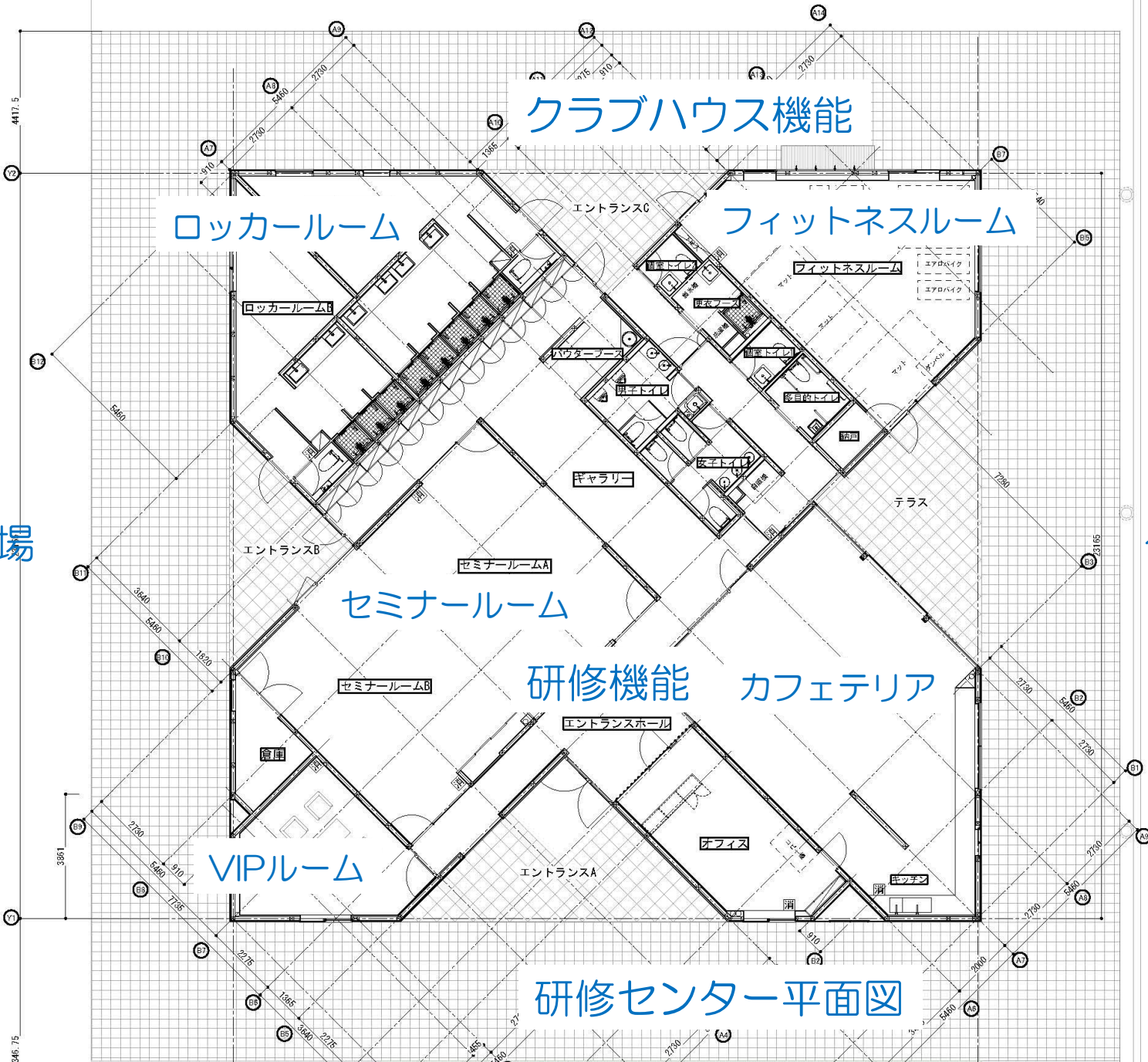
セミナールーム

研修機能

カフェテリア

VIPルーム

# 研修センター平面図



グラウンド

グラウンド

新工場





グラウンドより研修センターを望む



研修センター外観





カフェテリアよりグラウンドを望む

### 3 テラスポ鶴舞

名古屋市中心部の都市公園において現陸上競技場の再整備を提案

- 2014 名古屋市へ愛知県サッカー協会（AIFA）が  
基本構想案を提案
- 2015 基本計画の策定、メッセナゴヤ参加（異業種展示会）
- 2016 AIFAと名古屋市が覚書を締結  
実施計画書の策定
- 2018 施設完成 名古屋市へ寄付 オープン

### 3 テラスポ鶴舞コンセプト

- 1 スポーツ活動と公園利用者を中心とした地域コミュニティの融合。
- 2 名古屋市のスポーツ施設の中心施設として、スポーツを愛する人の交流の場。
- 3 各スポーツ競技団体、チーム、アスリートへの質の高いプログラムの提供。
- 4 国際都市名古屋として地域と世界をつなぐ拠点。
- 5 避難場所としての防災機能の充実。



### 3 テラスポ鶴舞事業計画

#### 資金計画

- 1 AIFA自己資金
- 2 JFAサッカー施設整備助成事業
- 3 寄付金
- 4 物品提供

#### 運営

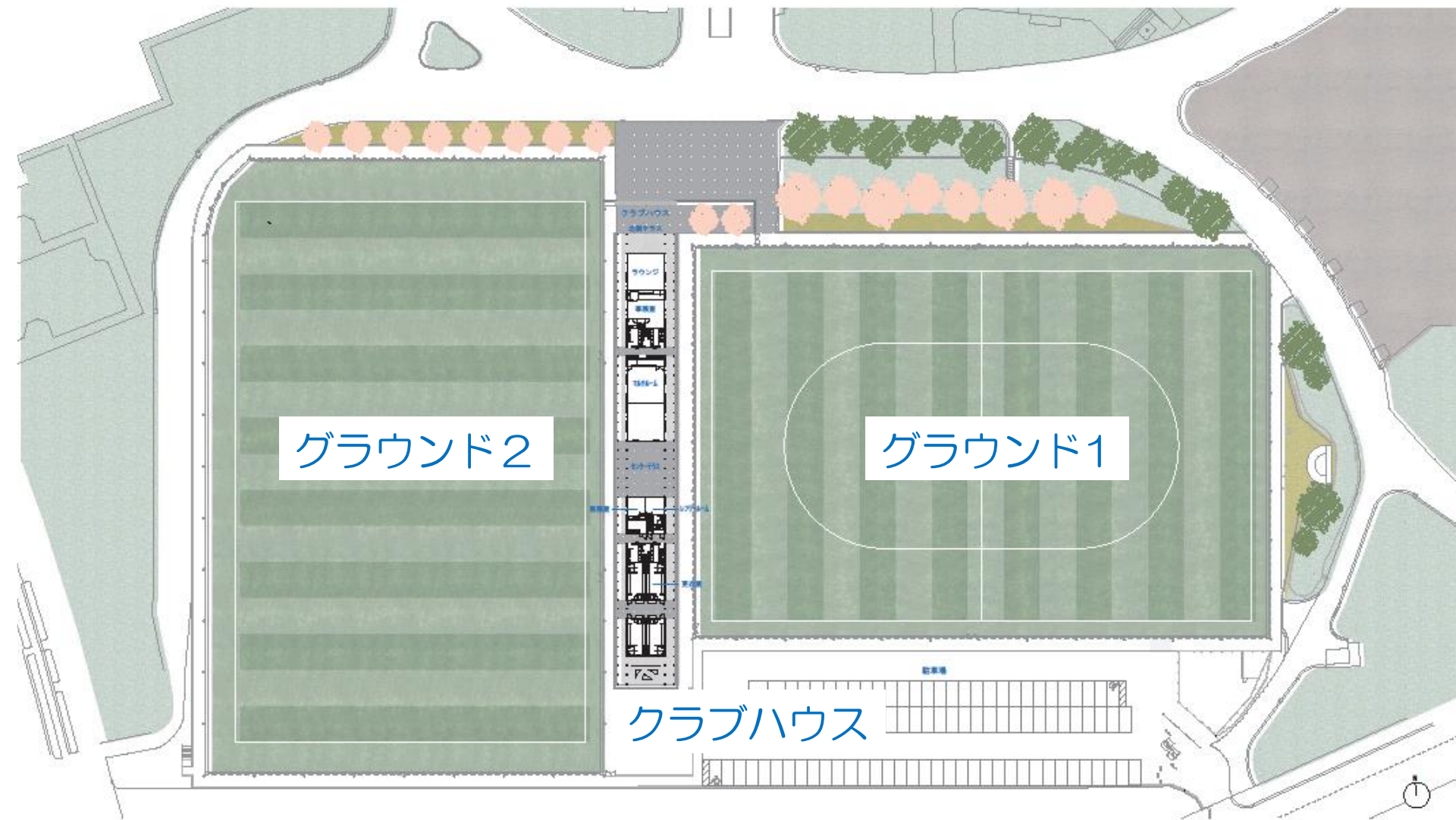
名古屋市がAIFAへ指定管理者として業務委託  
20年間（4年毎に更新）指定管理料は無し



なごやこうぎょうだいがく  
名古屋工業大学



鶴舞公園案内図



グラウンド2

グラウンド1

クラブハウス

施設配置図





クラブハウス空間構成





整備前の鶴舞公園陸上競技場



グラウンドよりクラブハウスを望む





施設全景・工事中の公会堂や名古屋大学附属病院を望む





インフォメーションがあり、誰もが自由に利用できるラウンジ  
テーブルは建築系学生とのワークショップにて制作





センターテラスと連続するマルチルーム

## 4 スポーツを通じたインクルーシブな社会実現のための 施設整備計画（障がい者スポーツ拠点整備）

鳥取県と日本財団による共同プロジェクト

2015 鳥取県と日本財団は、日本一のボランティア先進県を目指し、地域住民が元気に暮らし、誇りを持てる社会づくりのための共同プロジェクトを実施することで合意し、協定を締結。

2016 検討委員会開催

2018 基本計画策定 設計 建設

2020 完成予定

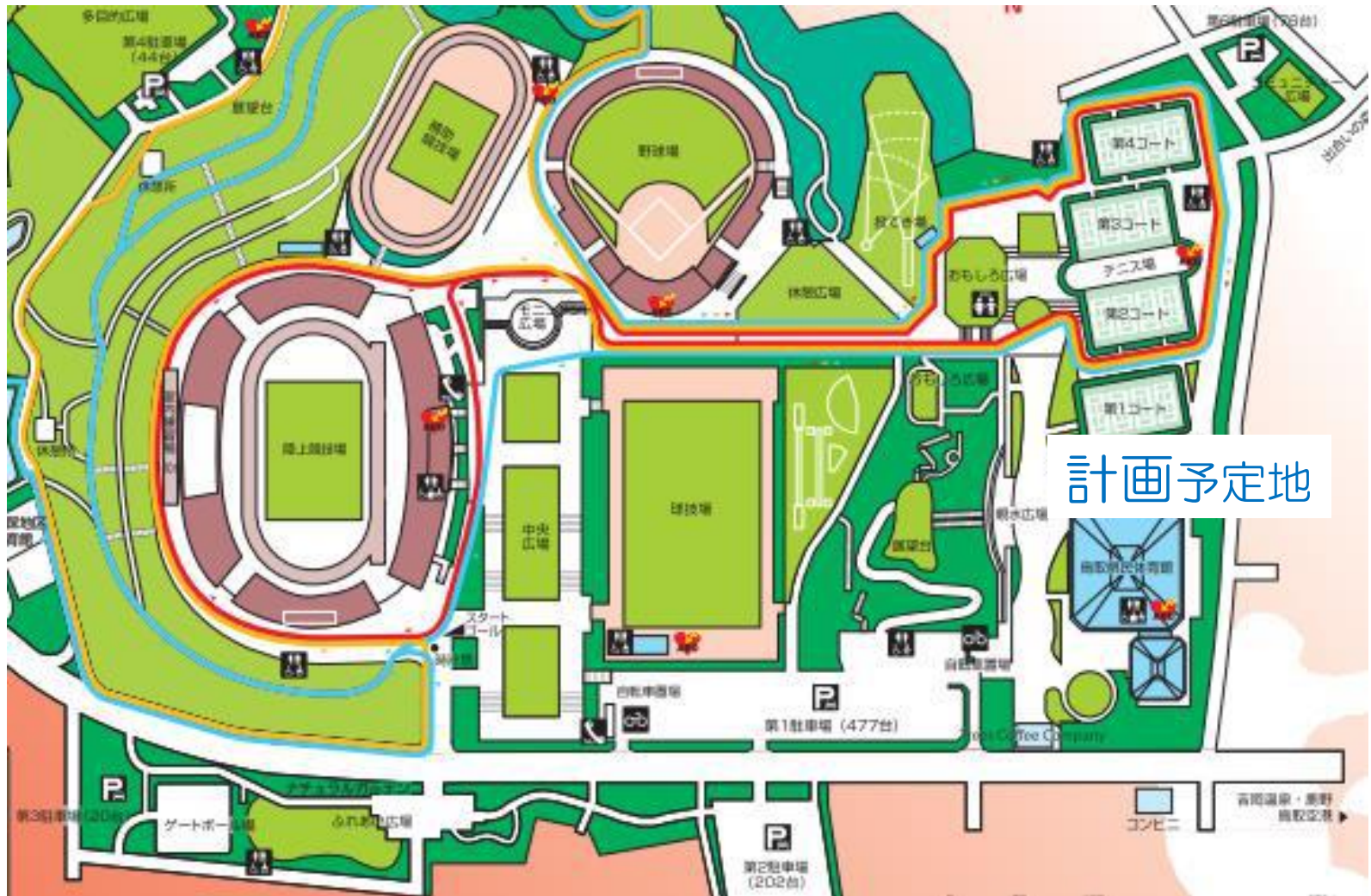
## 4 スポーツを通じたインクルーシブな社会実現のための 施設整備計画（障がい者スポーツ拠点整備）

県立布勢総合運動公園を障がい者を含めた子供から高齢者までのあらゆる世代のスポーツ拠点とするため、県民体育館や陸上競技場など周辺の既存施設と相互利用できる施設を整備する事により、スポーツを普及する人材の育成障がい者を含めたあらゆる世代のスポーツ活動の推進及び障がい者アスリートの支援を促進する。

- 1 障がい者を含めた子どもから高齢者までのあらゆる世代のスポーツを広く普及する人材の育成
- 2 スポーツを始めようとする障がい者を含めた子供から高齢者への支援
- 3 重度障がい児・者及び保護者への支援
- 4 ボランティア人材の発掘と活用
- 5 優秀アスリートの支援



# 4 スポーツを通じたインクルーシブな社会実現ための 施設整備計画・県立布勢運動公園案内図



## 5 都市型スポーツシューレプロジェクト

- 2018 愛知県某自治体へ愛知県サッカー協会（AIFA）が  
既存運動公園をリノベーションすることによる  
都市型スポーツシューレ構想案を提案・協議開始
- 2019 自治体との協議・協定締結予定

# 5 都市型スポーツシューレプロジェクトコンセプト

## 1 賑わいを創出する

既存スポーツ施設や駅前周辺整備計画とのつながりをつくることにより、既存施設を含めた全体の相乗効果を生み出す。

## 2 地域コミュニティの場をつくる

地域の人々が集う場として、カフェ・研修施設・イベント広場などを設け地域の活性化や地域コミュニティの構築を図る。

## 3 スポーツ文化の拠点として情報発信を行う

中部圏の集客を可能とするような、サッカーを中心とした豊かなスポーツ文化の拠点施設＝「スポーツシューレ」としてイメージを確立し積極的に情報発信を行う。

プロジェクトの詳細についてお知りになりたい方は  
以下のメールまでご連絡ください

[prime@blue.ocn.ne.jp](mailto:prime@blue.ocn.ne.jp)